

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2003 - 38450

(P2003 - 38450A)

(43)公開日 平成15年2月12日(2003.2.12)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テ-マコード* (参考)
A 6 1 B 5/00	102	A 6 1 B 5/00	102 C 4 C 3 4 1
A 6 1 G 12/00		A 6 1 G 12/00	Z 5 C 0 8 7
G 0 6 F 17/60	126	G 0 6 F 17/60	126 H 5 K 0 4 8
			126 U 5 K 1 0 1
G 0 8 B 25/00	510	G 0 8 B 25/00	510 M
審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 11数) 最終頁に続く			

(21)出願番号 特願2001 - 232406(P2001 - 232406)

(22)出願日 平成13年7月31日(2001.7.31)

(71)出願人 000001889

三洋電機株式会社

大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号

(72)発明者 岡本 美由記

大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号 三洋電機株式会社内

(74)代理人 100090181

弁理士 山田 義人

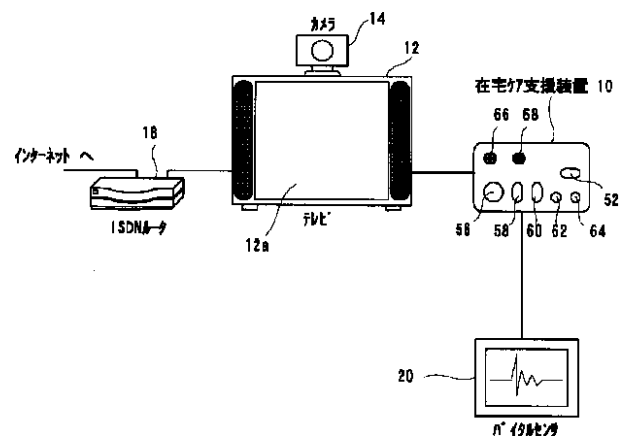
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 在宅ケア支援装置および在宅ケア支援システム

(57)【要約】

【構成】 ビデオメールボタン60を操作すると、テレビ12の画面12aにビデオメール操作のメニューが表示される。選択ボタン62と決定ボタン64を操作してメニューからビデオ撮影の項目を選択すると、ビデオ撮影待機の状態になる。ビデオメールボタン60を操作するとカメラ14およびマイク16を用いてビデオ撮影を開始し、再びビデオメールボタン60が操作されるまでビデオ撮影を行う。メニュー項目からビデオメールの送信の項目を選択すると、送信先のリストが表示される。選択ボタン62と決定ボタン64を操作して送信先を選択するとビデオメールが送信先に送信される。メニューからビデオメールの再生の項目を選択すると、ビデオメールの映像が画面12aに表示され音声がスピーカ12bから出力される。

【効果】 在宅ケア支援装置を用いてビデオメールの送受信を行うことができる。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】テレビ電話を用いたリアルタイムの会話を行ったり、被介護人の血圧、体温、脈拍、心電などの身体情報を管理センターに報知したりするための在宅ケア支援装置において、

カメラからの映像信号が入力される映像信号入力インタフェース、

マイクからの音声信号が入力される音声信号入力インタフェース、

前記映像信号入力インタフェースに入力された前記映像信号および前記音声信号入力インタフェースに入力された前記音声信号を記憶する記憶手段、

押し下げにより第 1 操作信号を出力する第 1 ボタン、および前記第 1 操作信号に応じて、前記記憶手段に記憶された前記映像信号および前記音声信号を前記管理センターの端末や他の在宅ケア支援装置に送信する送信手段を備える、在宅ケア支援装置。

【請求項 2】前記管理センターの端末や他の在宅支援装置から送信された映像信号および音声信号を受信する受信手段、

前記受信手段が受信した前記映像信号および前記音声信号を前記記憶手段に記録する記録手段、

押し下げにより第 2 操作信号を出力する第 2 ボタン、前記第 2 操作信号に応じて、前記記憶手段に記憶された前記音声信号および前記映像信号を再生する再生手段、

前記再生手段によって再生された前記映像信号をモニタに出力する映像信号出力インタフェース、および前記再生手段によって再生された前記音声信号をスピーカに出力する音声信号出力インタフェースをさらに備える、請求項 1 記載の在宅ケア支援装置。

【請求項 3】前記音声信号を出力するマイク、および前記再生手段によって再生された前記音声信号を出力するスピーカをさらに備える、請求項 2 記載の在宅ケア支援装置。

【請求項 4】前記映像信号を出力するカメラ、および前記再生手段によって再生された前記映像信号を表示するモニタをさらに備える、請求項 2 または 3 記載の在宅ケア支援装置。

【請求項 5】請求項 4 記載の在宅ケア支援装置を使用する在宅ケア支援システムであって、

複数の被介護人宅にそれぞれ設置され通信ネットワークに接続される複数の前記在宅ケア支援装置、および前記管理センターに設置され前記通信ネットワークに接続される端末を備える、在宅ケア支援システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、在宅ケア支援装置および在宅ケア支援システムに関し、特にたとえば、テレビ電話を用いたリアルタイムの会話を行ったり、被介護人の血圧、体温、脈拍、心電などの身体情報を管理セン

ターに報知したりする、在宅ケア支援装置および在宅ケア支援システムに関する。

【0002】

【従来の技術】従来のこの種の在宅ケア支援装置システムにおいて、被介護人と被介護人との間、および被介護人と被介護人の健康を管理する管理センターとの間で、テレビ電話を用いて映像および音声によるリアルタイムでの会話が可能機能を備える在宅ケア支援装置が知られている。

【0003】また、他の機能を備えるこの種の在宅ケア支援装置の 1 例が、平成 11 年 1 月 19 日付で願公開された特開平 11 - 9561 号公報〔A61B 5/00 G06F 13/00 17/60 19/00〕に開示されている。この従来技術によれば、予め設定された送信先に、送信先毎に定められた定型の電子メールを送信する機能が実現される。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかし、ビデオメールを他の被介護人や管理センターなどに送信できる機能を備えた在宅ケア支援装置は存在しなかった。

【0005】それゆえに、この発明の主たる目的は、ビデオメールの送受信を行える、在宅ケア支援装置を提供することである。

【0006】

【課題を解決するための手段】第 1 の発明は、テレビ電話を用いたリアルタイムの会話を行ったり、被介護人の血圧、体温、脈拍、心電などの身体情報を管理センターに報知したりするための在宅ケア支援装置において、カメラからの映像信号が入力される映像信号入力インタフェース、マイクからの音声信号が入力される音声信号入力インタフェース、映像信号入力インタフェースに入力された映像信号および音声信号入力インタフェースに入力された音声信号を記憶する記憶手段、押し下げにより第 1 操作信号を出力する第 1 ボタン、および第 1 操作信号に応じて、記憶手段に記憶された映像信号および音声信号を管理センターの端末や他の在宅ケア支援装置に送信する送信手段を備える、在宅ケア支援装置である。

【0007】第 2 の発明は、請求項 4 記載の在宅ケア支援装置を使用する在宅ケア支援システムであって、複数の被介護人宅にそれぞれ設置され通信ネットワークに接続される複数の在宅ケア支援装置、および管理センターに設置され通信ネットワークに接続される端末を備える、在宅ケア支援システムである。

【0008】

【作用】この発明においては、カメラから出力される映像信号は映像信号入力インタフェースに入力され、記憶手段に記憶される。また、マイクから出力される音声信号は音声信号入力インタフェースに入力され、記憶手段に記憶される。そして、第 1 ボタンを押し下げると、第 1 操作信号が出力され、送信手段は第 1 操作信号に応じて

て、記憶手段に記憶された映像信号と音声信号とを管理センターの端末や他の在宅ケア支援装置に対して送信する。

【0009】また、受信手段は管理センターの端末や他の在宅ケア支援装置から送信された映像信号および音声信号を受信する。そして、受信手段が受信した映像信号および音声信号を記録手段が記憶手段に記録する。第2ボタンを押し下げると、第2操作信号が出力され、再生手段は第2操作信号に応じて、記憶手段に記憶された映像信号と音声信号とを再生する。再生手段によって再生された映像信号は映像信号出力インタフェースを介してモニタに表示される。また、再生手段によって再生された音声信号は音声信号出力インタフェースを介してスピーカに出力される。

【0010】

【発明の効果】この発明によれば、在宅ケア支援装置を用いてビデオメールの送受信を行うことができる。したがって、単なる電子メールではなく、映像および音声を媒体としたビデオメールの送受信が可能なので、管理センターや他の被介護人に、見た目の様子や声の調子なども伝えることができ、健康状態を判断するためのより多くの情報を提供したり、より密度の濃いコミュニケーションを行ったりすることができる。また、テレビ電話などを用いたりリアルタイムの会話ではないので、通信相手の存否を気にすることなく、都合のよいときに情報を発信することができる。

【0011】この発明の上述の目的、その他の目的、特徴および利点は、図面を参照して行う以下の実施例の詳細な説明から一層明らかとなろう。

【0012】

【実施例】図1を参照して、この実施例の在宅ケア支援装置10は、複数の被介護人宅82にそれぞれ設置され、それぞれの在宅ケア支援装置10はインターネット100に接続される。インターネット100には、被介護人の健康を管理する管理センター80に設置されたコンピュータ(図示せず)も接続される。したがって、インターネット100を通じて、被介護人宅82と他の被介護人宅82との間、および被介護人宅82と管理センター80との間で、通信が可能になる。

【0013】管理センター80に設置されたコンピュータおよび複数の被介護人宅82にそれぞれ設置された在宅ケア支援装置10がこの実施例の在宅ケア支援システムを構成する。

【0014】なお、各被介護人宅82に設置された在宅ケア支援装置10と管理センター80に設置されたコンピュータとを接続する方法は、インターネット100に限らず、CATV-LANなどであってもよい。

【0015】図2に示すように、被介護人宅82において、在宅ケア支援装置10には、テレビ12、カメラ14およびISDNルータ18が接続される。そして、I

SDNルータ18を介して在宅ケア支援装置10がインターネット100に接続される。また、在宅ケア支援装置10には、シリアルケーブルによってバイタルセンサ20と接続される。バイタルセンサ20は、被介護人の血圧、体温、脈拍、心電、動脈血酸素飽和濃度などを測定するためのセンサである。なお、在宅ケア支援装置10にテレビ12、カメラ14、ISDNルータ18およびバイタルセンサ20を含めた図2に示す構成全体を在宅ケア支援装置と捉えることもできる。

【0016】この実施例の在宅ケア支援装置10は、バイタルセンサ20による各測定値を管理センター80に送信するなどの従来の装置が備える機能に加え、ビデオメールを管理センター80のコンピュータや他の被介護人宅82の在宅ケア支援装置10に送信する機能を備えている。在宅ケア支援装置10は、管理センター80や他の被介護人宅82との間で、映像および音声を用いてリアルタイムで会話を行う機能も備えている。

【0017】この在宅ケア支援装置10は、具体的には図3に示すように構成されている。在宅ケア支援装置10は、図3に示すようにCPU30を含んでおり、CPU30には、映像処理回路32を介して映像入力I/F36および映像出力I/F38、音声処理回路を介して音声入力I/F40および音声出力I/F42、第1記憶装置44、第2記憶装置46、通信回路48、シリアル通信回路50、ランプ52、ならびに時計54が接続される。音声入力I/F40にはマイク66が接続され、音声出力I/F42にはスピーカ68が接続される。また、在宅ケア支援装置10には、緊急ボタン56、測定ボタン58、ビデオメールボタン60、選択ボタン62および決定ボタン64が設けられており、これらのボタンもCPU30に接続される。

【0018】この実施例では、図3に示す構成のものを在宅ケア支援装置10とするが、マイク66およびスピーカ68、さらにはISDNルータ18およびバイタルセンサ20を含むものを在宅ケア支援装置10と捉えてもよい。

【0019】カメラ14の映像出力端子は映像入力I/F36に接続され、テレビ12の映像入力端子は映像出力I/F38に接続される。したがって、カメラ14で撮影された映像とマイク66で拾われた音声とが在宅ケア支援装置10に入力される。この映像と音声とは第2記憶装置46に記録される。また、第2記憶装置46に記録された映像と音声とは再生され、映像はテレビ12の画面12aに表示され、音声はスピーカ68から出力される。

【0020】シリアル通信回路50は、シリアルケーブルによってバイタルセンサ20に接続され、バイタルセンサ20が測定した被介護人の各測定値を受信する。受信した各測定値は、第2記憶装置46に記憶される。

【0021】通信回路48は、ISDNルータ18に接

続され、第 2 記憶装置 46 に記憶されたビデオメールやバイタルセンサ 20 によって測定された各測定値を送信したり、他の被介護者宅 82 の在宅ケア支援装置 10 から送信されたビデオメールを受信したりする。

【0022】図 4 から図 12 を用いて、以下にこの実施例の在宅ケア支援装置 10 の CPU 30 の動作について説明する。被介護人が在宅ケア支援装置 10 に設けられた、緊急ボタン 56、測定ボタン 58 およびビデオメールボタン 60 のいずれかを操作すると、CPU 30 は、図 9 のステップ S1、ステップ S5、ステップ S13 に 10

【0023】被介護人は、身体に異常を感じるなどして、緊急の助けを必要とする場合には、緊急ボタン 56 を操作する。すると、CPU 30 は、ステップ S1 において、緊急ボタン 56 が操作されたと判断する。そして、ステップ S3 において、予め設定された宛先への通報を行う。通報先が通報を受け付けると、映像および音声を用いたリアルタイムでの会話を開始する。通報の宛先は、管理センター 80 または他の被介護人宅 82 であり、宛先の設定は、第 1 記憶装置 44 に予め記憶されて 20

【0024】血圧、体温、脈拍、心電、動脈血酸素飽和濃度などの各測定値を管理センター 80 に送信するとき、まず、介護人などが、バイタルセンサ 20 の備える各センサを被介護人の身体に取り付け、バイタルセンサ 20 を操作し、データを測定する。そして、測定ボタン 58 を操作する。すると、CPU 30 はステップ S5 において、測定ボタン 58 が操作されたと判断する。そして、ステップ S7 において、バイタルセンサ 20 は、在宅ケア支援装置 10 へ測定データの送信を開始する。このとき、CPU 30 はシリアル通信回路 50 からシリアル信号を送信して、測定データ送信開始の指示をバイタルセンサ 20 に与える。バイタルセンサ 20 は、CPU 30 からの測定データ送信開始の指示を受けて、各測定値の測定データ送信を開始する。在宅ケア支援装置 10 に送信された各測定値は、第 2 記憶装置 46 に記憶される。CPU 30 は、ステップ S9 において、第 2 記憶装置 46 に記憶された各測定値を予め第 1 記憶装置 44 に 40

【0025】そして、ビデオメールについての操作を行いたいとき、ビデオメールボタン 60 を操作する。すると、CPU 30 は、ステップ S13 において、ビデオメ 50

ールボタン 60 が操作されたと判断する。ここで、在宅ケア支援装置 10 がテレビ 12 の画面 12a に映し出す映像は、図 4 に示すように、メイン表示部 22 に表示される映像とサブ表示部 24 に表示される映像とに分かれる。

【0026】ステップ S13 において、ビデオメールボタン 60 が操作されたと判断すると、CPU 30 は、ステップ S15 において、図 5 に示すようなメニュー画面をメイン表示部 22 に表示する。そして、ステップ S17 において、サブ表示部 24 に、「選択ボタン：メニューの選択」および「決定ボタン：メニューの実行」という操作ガイドを表示する。

【0027】図 5 に示すように、メニュー表示画面には「ビデオの撮影」、「ビデオメールの送信」、「ビデオメールの再生」、「ビデオメールの消去」および「終了」の各メニュー項目が表示される。

【0028】選択ボタン 62 を操作すると、ステップ S19 において、選択ボタン 62 が操作されたと判断し、ステップ S21 において、カーソル 70（メニュー項目の文字が反転している部分）を一つ下のメニュー項目に移動させる。選択ボタン 62 を繰り返し操作することによって、実行したいメニュー項目にカーソル 70 を合わせる。なお、カーソル 70 が末尾のメニュー項目「終了」に置かれた状態でさらに選択ボタン 62 を操作すると、カーソル 70 は先頭のメニュー項目「ビデオの撮影」に移動する。実行したいメニュー項目にカーソル 70 を合わせて決定ボタン 64 を操作すると、CPU 30 はステップ S23 において、決定ボタン 64 が操作されたと判断し、ステップ S25、ステップ S37、ステップ S77、ステップ S83 およびステップ S89 において、選択されたメニュー項目を判断する。

【0029】「ビデオの撮影」のメニュー項目を選択すると、ステップ S25 において、CPU 30 は「ビデオの撮影」のメニュー項目が選択されたと判断し、ステップ S27 において、サブ表示部 24 に、「ビデオメールボタン：5 秒後に撮影を開始」という操作ガイドを表示する。そして、ビデオメールボタン 60 が操作されると、CPU 30 は、ステップ S29 において、ビデオメールボタン 60 が操作されたと判断し、ステップ S31 において、サブ表示部 24 に「ビデオメールボタン：撮影の終了」という操作ガイドを表示する。1 度目のビデオメールボタン 60 の操作から 5 秒が経過すると、ステップ S33 において、ビデオの撮影（記録）を開始する。

【0030】ビデオの撮影を開始すると、カメラ 14 から出力された映像信号が映像入力 I/F 36 および映像処理回路 32 を介して CPU 30 に与えられ、マイク 66 から出力された音声信号が音声入力 I/F 40 および音声処理回路 34 を介して CPU 30 に与えられる。CPU 30 は、与えられた映像信号および音声信号を第 2

記憶装置に記録するとともに、映像信号を映像処理回路 32 および映像出力 I/F 38 を介してテレビ 12 の映像入力端子に出力し、音声信号をテレビ 12 の音声入力端子に出力する。テレビ 12 に入力された映像信号は、画面 12a のメイン表示部 22 に映像として写しだされ、音声信号はスピーカ 68 から音声として出力される。したがって、被介護人は、自分の姿と声を確認しながらビデオ撮影を行うことができる。

【0031】なお、ステップ S29 において、1 度目のビデオメールボタン 60 の操作が行われたと判断した直後から、カメラ 14 で撮影された映像のテレビ 12 の画面 12a への表示およびマイク 66 が拾った音声のスピーカ 68 からの出力が開始される。そして、1 度目のビデオメールボタン 60 の操作から、つまり、映像と音声とのテレビ 12 およびスピーカ 68 における出力が開始されてから 5 秒が経過すると、ステップ S31 において、映像と音声との第 2 記憶装置 46 への記録が開始される。この記録の開始と同時に、録画中を示すアイコンが図 4 に示すように、メイン表示部 22 のたとえば左上隅に表示される。

【0032】ビデオの撮影が開始された後に、再びビデオメールボタン 60 を操作すると、CPU 30 は、ステップ S35 においてビデオメールボタン 60 が操作されたと判断し、ビデオ撮影を終了する。ビデオ撮影を終了すると、直ちにビデオメールが作成される。そして、図 9 のステップ S15 に戻り、再び図 5 に示すメニュー画面を表示する。

【0033】撮影したビデオを送信するときは、図 5 に示すメニュー画面において、「ビデオメールの送信」のメニュー項目を選択する。すると、CPU 30 は、ステップ S37 において、「ビデオメールの送信」のメニュー項目が選択されたと判断する。そして、ステップ S39 において、図 6 に示すような、ビデオメール一覧をメイン表示部 22 に表示し、ステップ S41 において、サブ表示部 24 に、「選択ボタン：ビデオメールの選択」および「決定ボタン：決定」という操作ガイドを表示する。

【0034】図 6 に示すように、ビデオメール一覧には、撮影したビデオメールやこれまでに受信したビデオメールのすべてのタイトルが表示され、また、一覧の末尾には「ビデオメールの選択」のメニューを終了するためのメニュー項目「終了」が表示される。ビデオメールのタイトルには、ビデオメールを撮影した日時もしくは受信した日時および撮影者（送信元）の名前が表示される。撮影者の名前は第 1 記憶装置 44 に予め登録されており、ビデオメールを作成したときに自動的にタイトルに記録される。また、ビデオメールを作成したときに時計 54（図 3 参照）から取得された日時情報もタイトルに記録される。

【0035】選択ボタン 62 を操作すると、ステップ S

43 において、選択ボタン 62 が操作されたと判断し、ステップ S45 において、カーソル 72 を一つ下のタイトルに移動させる。選択ボタン 62 を繰り返し操作することによって、送信したいビデオメールのタイトルにカーソル 72 を合わせる。なお、カーソル 72 が末尾のメニュー項目「終了」に置かれた状態でさらに選択ボタン 62 を操作すると、カーソル 72 は先頭のタイトルに戻る。ビデオメールのすべてのタイトルを表示しきれないときは、表示されている末尾のタイトルにカーソル 72 が置かれている状態で選択ボタン 62 を操作すると、未表示のタイトルが一つスクロール表示される。

【0036】図 6 に示すように、ビデオメール一覧の左側には、画像表示部 74 が設けられており、カーソル 72 が置かれているビデオメールの映像の一部が静止画像としてこの映像表示部 74 に表示される。したがって、画像表示部 74 に表示される画像によって、ビデオメールの内容を確認することができる。

【0037】送信したいビデオメールのタイトルもしくはメニュー項目「終了」にカーソル 72 を合わせて決定ボタン 64 を操作すると、CPU 30 はステップ S47 において、決定ボタン 64 が操作されたと判断する。そして、ステップ S49 において、選択されたのがメニュー項目「終了」であるかどうかを判断する。メニュー項目「終了」が選択されたと判断すると、メニュー項目「ビデオメールの送信」を終了して図 9 のステップ S15 に戻り、図 5 に示すメニュー項目を再びメイン表示部 22 に表示する。

【0038】一方、選択されたのがメニュー項目「終了」でないと判断すると、ステップ S51 において、図 7 に示すような送信先一覧をメイン表示部 22 に表示し、ステップ S53 において、サブ表示部 24 に、「選択ボタン：送信先の選択」および「決定ボタン：決定」という操作ガイドを表示する。

【0039】図 7 に示すように、送信先一覧には、第 1 記憶装置 44 に予め登録されている、メール送信先の名前、そして「ビデオメールの送信」のメニューを終了するためのメニュー項目「終了」が表示される。

【0040】選択ボタン 62 を操作すると、ステップ S55 において、選択ボタン 62 が操作されたと判断し、ステップ S57 において、カーソル 76 を一つ下の送信先に移動させる。選択ボタン 62 を繰り返し操作することによって、ビデオメールを送信したい送信先もしくはメニュー項目「終了」にカーソル 76 を合わせる。そして、決定ボタン 64 を操作する。すると、ステップ S59 において、決定ボタン 64 が操作されたと判断し、ステップ S61 において、メニュー項目「終了」が選択されたかどうかを判断する。

【0041】メニュー項目「終了」が選択されたと判断すると、図 9 のステップ S15 に戻り、図 5 に示すメニュー項目を再びメイン表示部 22 に表示する。一方、選

択されたのがメニュー項目「終了」でないと判断すると、図 11 のステップ S 63 において、図 8 に示すような送信確認画面をメイン表示部 22 に表示し、ステップ S 65 において、サブ表示部 24 に「選択ボタン：はい / いいえの選択」および「決定ボタン：決定」という操作ガイドを表示する。

【0042】選択ボタン 62 を操作すると、ステップ S 67 において、選択ボタン 62 が操作されたと判断し、ステップ S 69 において、カーソル 78 の位置を「はい」もしくは「いいえ」に移動する。カーソル 78 が

「はい」もしくは「いいえ」のどちらかに合致した状態で決定ボタン 64 を操作すると、ステップ S 71 において、決定ボタン 64 が操作されたと判断する。そして、CPU 30 は、ステップ S 73 において、「はい」が選択されたかどうかを判断する。

【0043】「はい」が選択されたと判断すると、ステップ S 75 において、選択されたビデオメールを指定された送信先に送信し、図 9 のステップ S 15 に戻る。一方、選択されたのが「はい」でないと判断すると、ステップ S 75 におけるビデオメールの送信処理をスキップ

して図 9 のステップ S 15 に戻る。ステップ S 15 では、図 5 に示すメニュー画面をメイン表示部 22 に表示する。

【0044】撮影したビデオメールや受信したビデオメールを再生するときは、図 5 に示すメニュー画面において、「ビデオメールの再生」のメニュー項目を選択する。なお、ビデオメールを受信していると、ランプ 52 (図 2 参照) を点灯してその旨が知らされる。「ビデオメールの再生」のメニュー項目を選択すると、図 12 の

ステップ S 77 において、「ビデオメールの再生」が選

択されたと判断し、ステップ S 79 において、再生するビデオメールの選択を行う。このとき、ビデオメールの一覧がメイン表示部 22 に表示される。ビデオメール一覧を参照しつつ選択ボタン 62 および決定ボタン 64 を操作することによって、再生するビデオメールを選択する。そして、ビデオメールの選択が終了すると、ステップ S 81 において、指定されたビデオメールを再生する。ビデオメールの再生が終了すると、図 9 のステップ S 15 に戻り、図 5 に示すメニュー画面をメイン表示部 22 に表示する。

【0045】また、ビデオメールを消去するときは、図 5 に示すメニュー画面において、「ビデオメールの消去」のメニュー項目を選択する。「ビデオメールの消去」のメニュー項目を選択すると、ステップ S 83 において、「ビデオメールの消去」が選択されたと判断し、ステップ S 85 において消去するビデオメールの選択を行う。このとき、ビデオメールの一覧がメイン表示部 22 に表示される。ビデオメール一覧を参照しつつ選択ボタン 62 および決定ボタン 64 を操作することによって、消去するビデオメールの選択を行う。そして、ビデオ

*オメールの選択が終了すると、ステップ S 87 において、選択されたビデオメールを第 2 記憶装置 46 から消去する。ビデオメールの消去が終了すると、図 9 のステップ S 15 に戻り、図 5 に示すメニュー画面をメイン表示部 22 に表示する。

【0046】そして、ビデオメールについての操作を終了するときは、図 5 に示すメニュー画面において、「終了」のメニュー項目を選択する。「終了」のメニュー項目を選択すると、ステップ S 89 において、「終了」のメニュー項目が選択されたと判断し、ビデオメール操作のルーチンを抜けて、図 9 のステップ S 1 に戻る。

【0047】上述したように、この実施例の在宅ケア支援装置 10 によれば、簡単な操作によってビデオメールを撮影して管理センター 80 や他の被介護人宅 82 に送信することができる。

【0048】テレビ電話を用いたリアルタイムの会話ではないので、通信相手が在宅していないときであっても、ビデオメールを送信しておけば、通信相手が帰宅してからビデオメールを見ることができる。したがって、通信の利便性が向上する。

【0049】また、単なる電子メールではなく、映像および音声を媒体としたビデオメールなので、より密度の濃いコミュニケーションが可能になるとともに、被介護人の健康状態を見た目の様子や声の調子によっても判断することができる。

【0050】なお、在宅ケア支援装置 10 がビデオメールを送信する送信先は、必ずしも他の在宅ケア支援装置 10 でなくてもよく、ビデオメールを受信して再生する機能を備えたパーソナルコンピュータなどであってもよい。

【0051】また、上述した実施例は形態を種々に変更することができる。たとえば、各被介護人宅 82 に配置された在宅ケア支援装置 10 は、インターネット 100 などを介して他の被介護人宅 82 の他に管理センター 80 のコンピュータに接続されることとしたが、これに代えてもしくは加えて、介護人や担当医師のコンピュータと接続するようにしてもよい。

【図面の簡単な説明】

【図 1】この発明の一実施例の全体構成を示す図解図である。

【図 2】在宅ケア支援装置の一使用例を示す図解図である。

【図 3】在宅ケア支援装置の内部構成を示すブロック図である。

【図 4】在宅ケア支援装置による画面表示構成を示す図解図である。

【図 5】在宅ケア支援装置による画面表示例を示す図解図である。

【図 6】在宅ケア支援装置による画面表示例を示す図解図である。

【図 7】在宅ケア支援装置による画面表示例を示す図解図である。

【図 8】在宅ケア支援装置による画面表示例を示す図解図である。

【図 9】在宅ケア支援装置の動作の一部を示すフロー図である。

【図 10】在宅ケア支援装置の動作の一部を示すフロー図である。

【図 11】在宅ケア支援装置の動作の一部を示すフロー図である。

【図 12】在宅ケア支援装置の動作の一部を示すフロー図である。

【符号の説明】

10 ...在宅ケア支援装置

* 12 a ...画面

14 ...カメラ

30 ...CPU

36 ...映像入力 I / F

38 ...映像出力 I / F

40 ...音声入力 I / F

42 ...音声出力 I / F

46 ...第 2 記憶装置

48 ...通信回路

10 32 ...映像処理回路

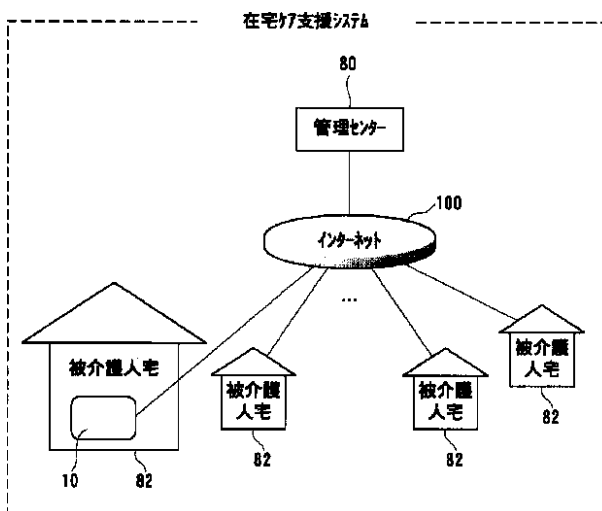
34 ...音声処理回路

66 マイク

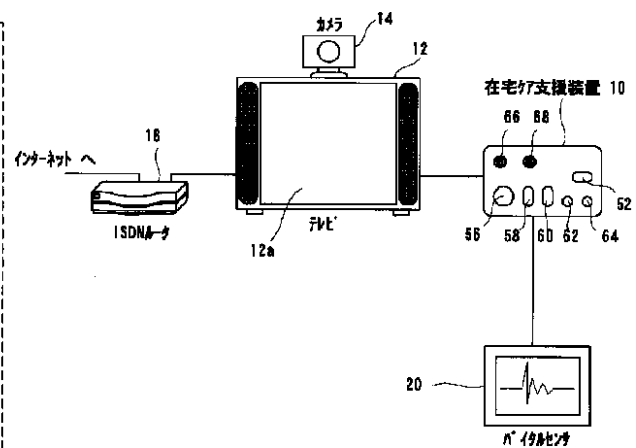
68 スピーカ

*

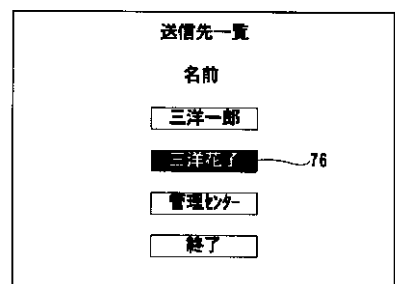
【図 1】



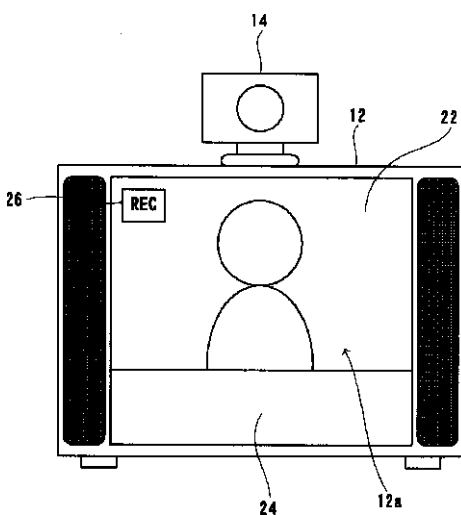
【図 2】



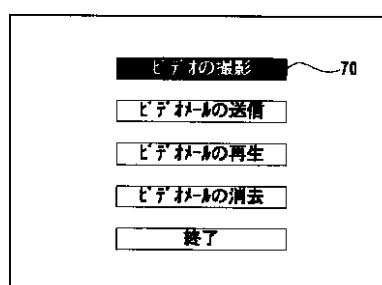
【図 7】



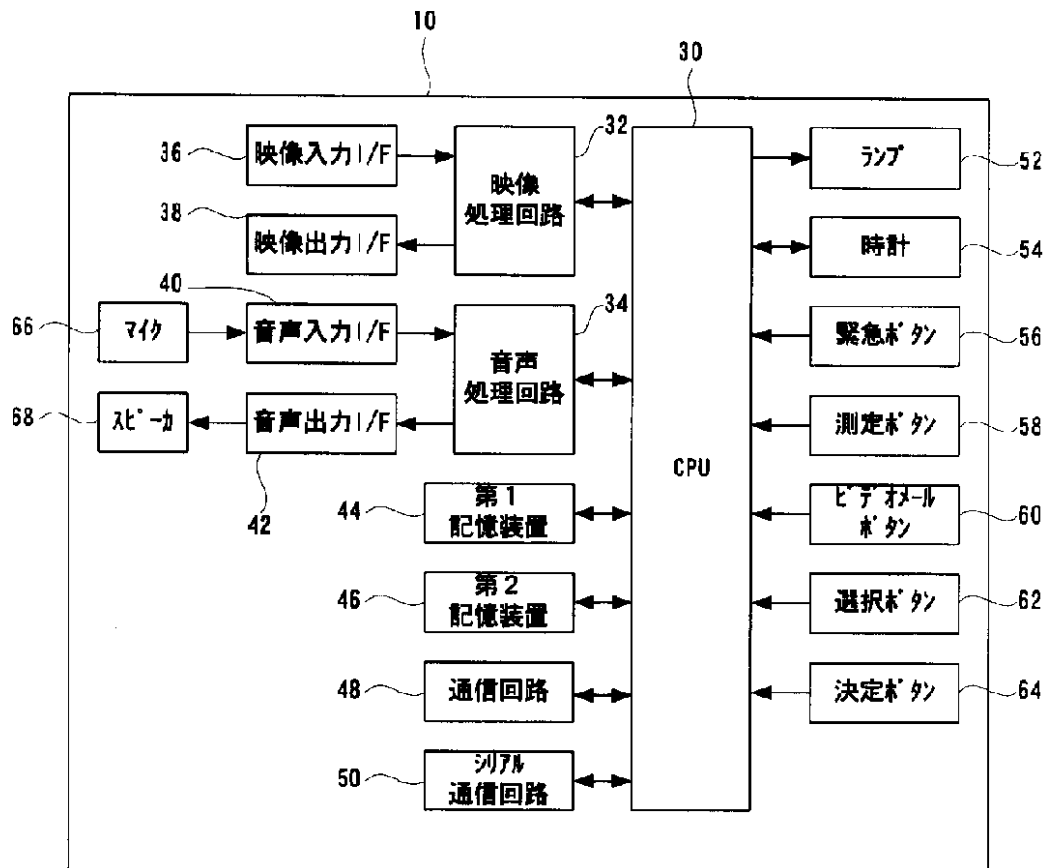
【図 4】



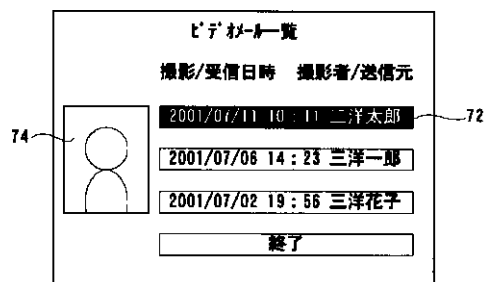
【図 5】



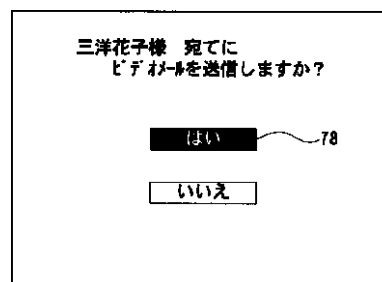
【図3】



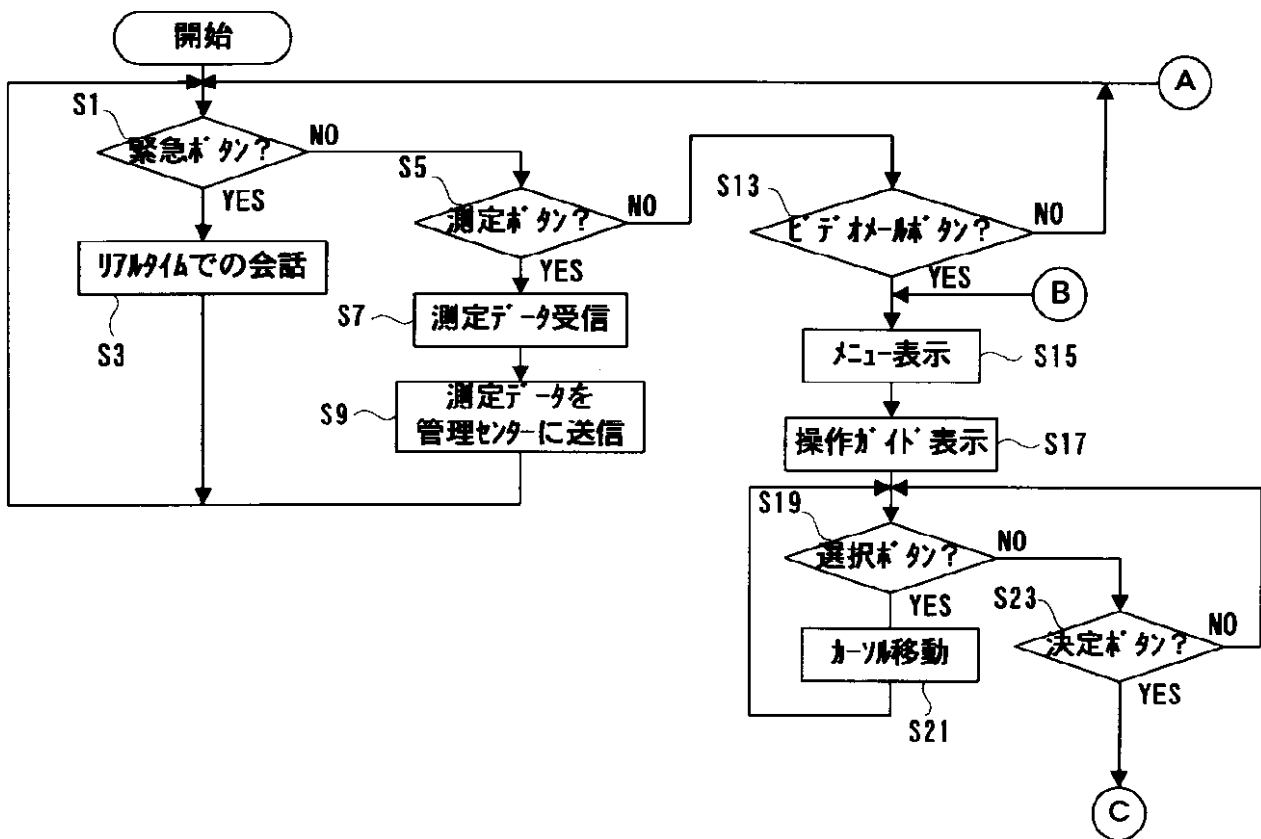
【図6】



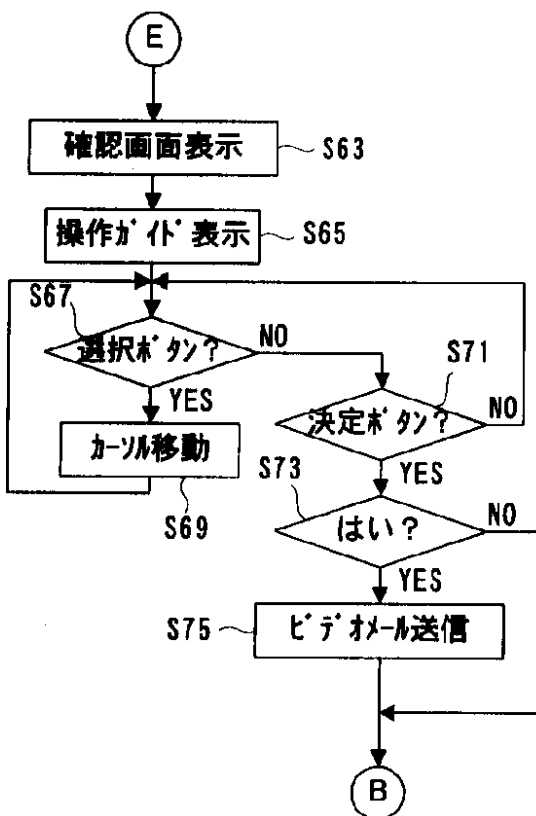
【図8】



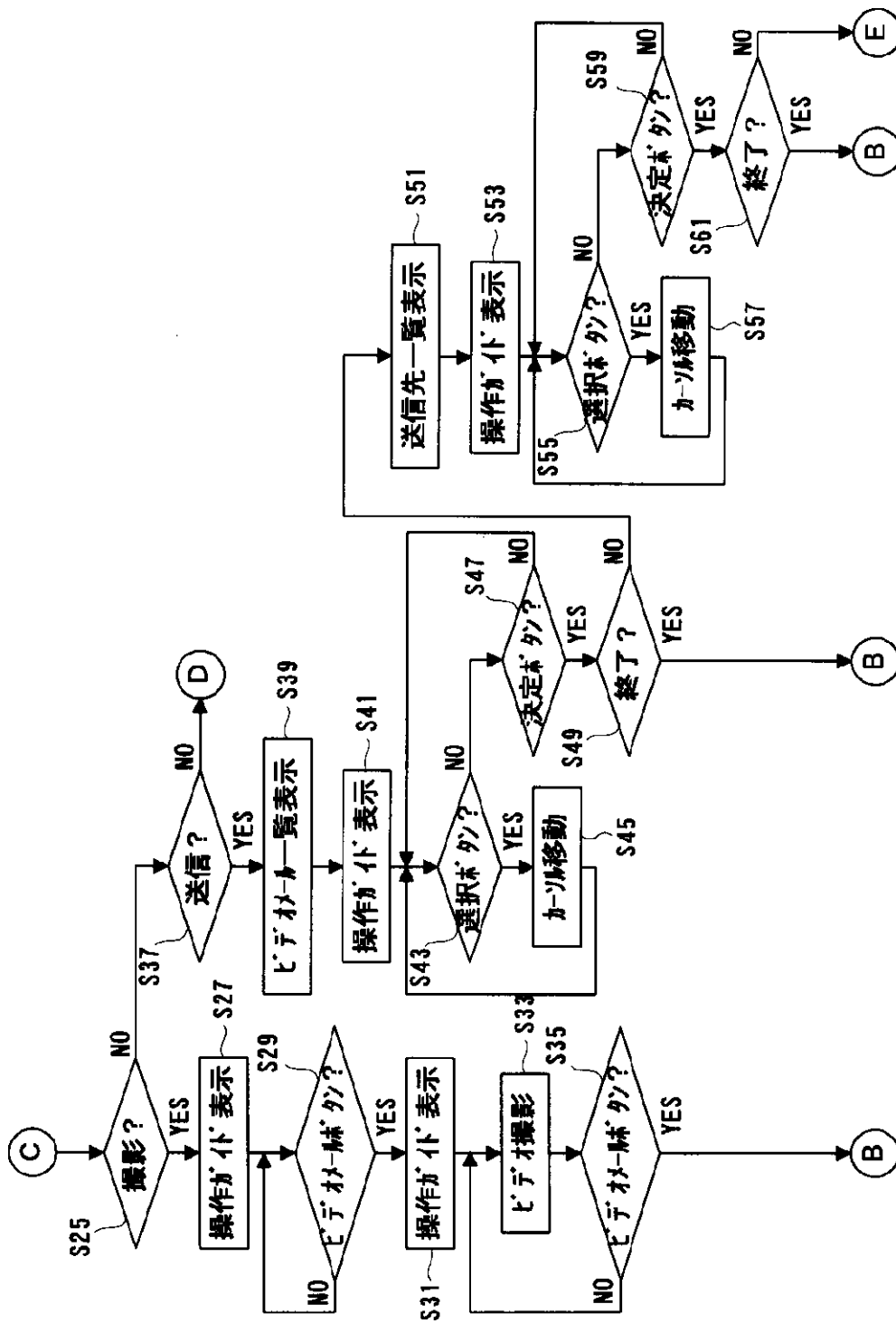
【図9】



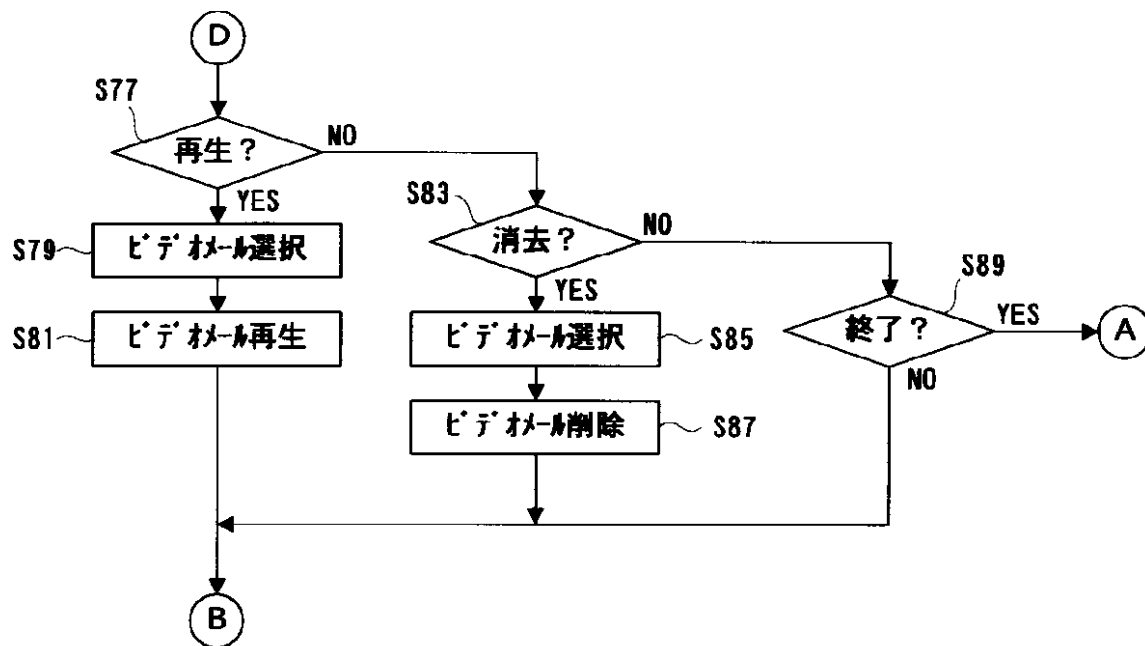
【図11】



【図10】



【図 12】



 フロントページの続き

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テ-マコード (参考)
G 0 8 B 25/04		G 0 8 B 25/04	K
H 0 4 M 11/04		H 0 4 M 11/04	
H 0 4 Q 9/00	3 0 1	H 0 4 Q 9/00	3 0 1 Z
	3 1 1		3 1 1 K

F タ-ム(参考) 4C341 LL10

5C087 AA02 AA03 AA09 AA10 AA24
 AA25 AA37 AA44 BB03 BB12
 BB74 DD03 DD25 DD26 EE05
 EE16 EE18 FF01 FF02 FF04
 FF05 FF19 FF20 FF22 GG02
 GG18 GG23 GG45 GG66 GG67
 GG70 GG71 GG83
 5K048 AA04 BA03 CA02 DA02 DC03
 EB15 HA04 HA06 HA22
 5K101 KK02 KK13 LL03 MM07 NN06
 NN14 NN21 RR12 SS07 VV07

专利名称(译)	家庭护理支持设备和家庭护理支持系统		
公开(公告)号	JP2003038450A	公开(公告)日	2003-02-12
申请号	JP2001232406	申请日	2001-07-31
[标]申请(专利权)人(译)	三洋电机株式会社		
申请(专利权)人(译)	三洋电机株式会社		
[标]发明人	岡本美由記		
发明人	岡本 美由記		
IPC分类号	A61B5/00 A61G12/00 G06Q50/22 G06Q50/24 G08B25/00 G08B25/04 G16H10/60 H04M11/04 H04Q9/00 G06F17/60		
FI分类号	A61B5/00.102.C A61G12/00.Z G06F17/60.126.H G06F17/60.126.U G08B25/00.510.M G08B25/04.K H04M11/04 H04Q9/00.301.Z H04Q9/00.311.K G06Q50/22 G06Q50/22.120 G06Q50/24 G06Q50/24.100 G16H10/00 G16H20/00 G16H40/60		
F-TERM分类号	4C341/LL10 5C087/AA02 5C087/AA03 5C087/AA09 5C087/AA10 5C087/AA24 5C087/AA25 5C087/AA37 5C087/AA44 5C087/BB03 5C087/BB12 5C087/BB74 5C087/DD03 5C087/DD25 5C087/DD26 5C087/EE05 5C087/EE16 5C087/EE18 5C087/FF01 5C087/FF02 5C087/FF04 5C087/FF05 5C087/FF19 5C087/FF20 5C087/FF22 5C087/GG02 5C087/GG18 5C087/GG23 5C087/GG45 5C087/GG66 5C087/GG67 5C087/GG70 5C087/GG71 5C087/GG83 5K048/AA04 5K048/BA03 5K048/CA02 5K048/DA02 5K048/DC03 5K048/EB15 5K048/HA04 5K048/HA06 5K048/HA22 5K101/KK02 5K101/KK13 5K101/LL03 5K101/MM07 5K101/NN06 5K101/NN14 5K101/NN21 5K101/RR12 5K101/SS07 5K101/VV07 4C117/XA07 4C117/XB04 4C117/XE13 4C117/XE15 4C117/XE17 4C117/XE23 4C117/XE37 4C117/XE60 4C117/XF01 4C117/XG15 4C117/XG20 4C117/XG23 4C117/XG34 4C117/XG38 4C117/XG52 4C117/XH17 4C117/XJ03 4C117/XJ23 4C117/XJ52 4C117/XL09 4C117/XM05 4C117/XP01 4C117/XP04 4C117/XP08 4C117/XP10 4C117/XP13 4C117/XP15 4C117/XR04 5K201/BA19 5K201/CA06 5K201/CA08 5K201/ED09 5K201/EF03 5K201/EF04 5K201/EF09 5L099/AA13 5L099/AA22		
代理人(译)	山田义人		
外部链接	Espacenet		

摘要(译)

[结构]当操作视频邮件按钮60时，在电视12的屏幕12a上显示视频邮件操作菜单。当通过操作选择按钮62和进入按钮64从菜单中选择视频拍摄项目时，进入视频拍摄待机状态。当操作视频邮件按钮60时，使用照相机14和麦克风16开始视频拍摄，并且执行视频拍摄，直到再次操作视频邮件按钮60为止。从菜单项中选择“发送视频邮件”项以显示收件人列表。当操作选择按钮62和输入按钮64以选择目的地时，视频邮件被发送到目的地。当从菜单中选择视频邮件回放的项目时，视频邮件图像显示在屏幕12a上，并且声音从扬声器12b输出。[效果]可以使用家庭护理支持设备发送和接收视频邮件。

